

**製品名: DMPK ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10040**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	70kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DMPK
別名	DMPK; DM1PK; MDPK; Myotonin-protein kinase; MT-PK; DM-kinase; DMK; DM1 protein kinase; DMPK; Myotonic dystrophy protein kinase
遺伝子 ID	1760.0
SwissProt ID	Q09013
免疫原	抗血清はヒト DMPK 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 11-60

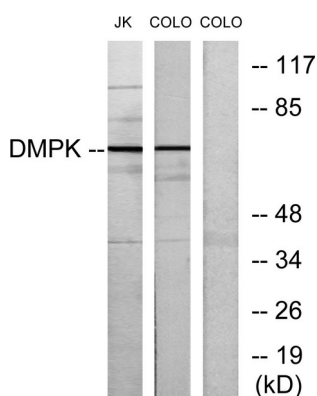
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Rho ファミリーの低分子 GTPase と相互作用する他のキナーゼと密接に関連する

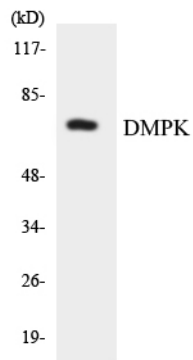
リン-スレオニンキナーゼです。この酵素の基質には、ミオジェニン、L型カルシウムチャネルのβサブユニット、およびホスホレンマロンが含まれます。この遺伝子の3'非翻訳領域には、CTGトリヌクレオチドリピートの5~38コピーが含まれています。この不安定なモチーフが50~5,000コピーに拡大すると、ミオトニックジストロフィーI型を引き起こし、リピート要素のコピー数の増加に伴い重症度が増します。リピートの拡大は、この領域における遺伝子発現を阻害する局所的なクロマチン構造の凝縮と関連しています。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがいくつか報告されていますが、これらのバリエーションの一部は全長が未解明です。[RefSeq提供、2016年7月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、補因子: マグネシウム、疾患: DMPKの欠陥は、ミオトニックジストロフィー1 (DM1) [MIM:160900]の原因です。シュタイナート病としても知られています。DMは、ミオトニア、四肢遠位部の筋萎縮、白内障、性腺機能低下症、内分泌機能障害、男性型脱毛症、および不整脈を特徴とする常染色体優性神経変性疾患です。DM患者は、反復長に反比例してキナーゼ発現レベルが低下します。推定最小発生率は出生児8,000人中1人です。DM1は、DMPK遺伝子の3'-UTRにおけるCTG伸長によって引き起こされます。反復長は通常、世代が進むにつれて増加しますが、必ずしもそうとは限りません。、酵素調節: Gタンパク質セカンドメッセンジャーに反応して活性化されます。負の自己調節性C末端コイルドコイル領域によって不活性構造に維持されます。コイルドコイルを介したオリゴマー形成は、C末端付近のタンパク質分解による切断と同様に、触媒活性の増強と相関しています。、機能: 心筋収縮力の調節と適切な心筋伝導活性の維持に不可欠です。ホスホランパンをリン酸化します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。DMPKサブファミリー。、類似性: 1つのAGCキナーゼC末端ドメインを含みます。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、組織特異性: ほとんどのアイソフォームは、心臓、骨格筋、肝臓、脳を含む多くの組織で発現しますが、心臓と骨格筋にのみ存在するアイソフォーム2と、脳にのみ存在し、線条体、小脳皮質、橋に高レベルで存在するアイソフォーム14を除きます。、

## 研究分野

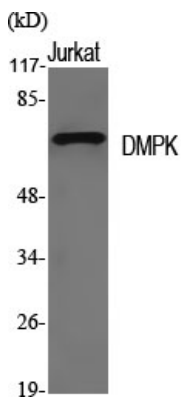
## 画像データ



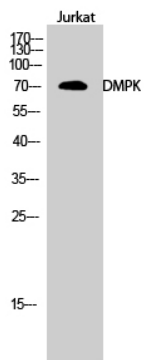
DMPK抗体を用いたJurkat細胞およびCOLO205細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



DMPK 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



DMPK ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



DMPK ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析